

プロジェクト 施設園芸で儲かる産地づくり

目 標

施設野菜経営体数	R2：335経営体	→	R10：382経営体
トルコギキョウの出荷額（県全体）	R4：166,590千円	→	R10：175,940千円
キクの出荷額（県全体）	R4：251,073千円	→	R10：258,441千円
冬の農業主力品目の面積（県全体）	R3：9,384a	→	R10：9,854a

挑戦する内容

- ・高温に対応した栽培技術の確立等（トマト・ミニトマト、花き、いちご）
- ・収益性向上に向けた技術等の確立（花き、いちご）
- ・省力化技術等導入支援（トマト・ミニトマト、花き、いちご）

関係者の声
＝対話

- ・高温に対応した栽培技術や、遮光等の事例について情報提供してほしい（農協）
- ・指導員等の世代交代が進んでいるため、農協や県と連携した基礎的な研修を強化し、現場での指導力向上を図っていきたい（全農）
- ・収益を確保できる新たな品目等の栽培技術を開発してほしい（農協）
- ・よつぼしは食味が良いので、安定的に収量を確保できるようにしたい（農業者）
- ・青森県独自のいちご品種が育成されると、単価は上がるのでは（農業者）
- ・今後も見込まれる生産者の減少に対応して、省力化・労働力不足対策に取り組んでほしい（農協）

役割分担

- ・全農、農協：販売戦略、研修会開催協力、現地指導、実証ほ等設置運営、消費宣伝活動
- ・産技センター：高温対策等の異常気象に係る試験研究と技術の開発、栽培技術の確立試験への協力
- ・県：研修会開催、現地指導、現地普及展示ほの設置、園芸産地における事業継続計画の作成・実践等支援
- ・花のくにつくり推進協議会：流通効率化の検証
- ・青森県農業再生協議会：施設園芸等燃料価格高騰対策事業による支援

変革後の姿

- ・高温に対応した栽培技術の確立による夏秋期安定生産
- ・省力化、労働力不足対策により、産地を維持

令和7年度計画

挑戦する内容

- 1 高温に対応した栽培技術の確立等
 - ・夏場の高温に対応した技術の開発・実証（花き）
 - ・遮光資材など高温対策技術の導入・支援（トマト・ミニトマト、花き、いちご）
 - ・指導者向け講習会の開催（トマト・ミニトマト、花き）
- 2 収益性向上に向けた技術等の確立
 - ・収益を確保できる新たな品目等の栽培技術開発（花き）（農総研）
 - ・いちご「よつぼし」の栽培技術確立、現地実証（いちご）（農総研、実証ほ設置2か所）
- 3 省力化技術等導入支援
 - ・省力化機械導入支援、省エネ設備・資材の展示会（トマト・ミニトマト、花き、いちご）

トマト・ミニトマト
生産技術研修会

施設園芸の自動かん水・施肥装置

対話

- ・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（7月、1月）
- ・研修会等の機会を活用して、生産者、関係者等から意見を聞き取り、取組内容に反映（トマト・ミニトマト、花き、いちご 5～12月）